



寝取られクエスト

〜恋人の聖女と泊った宿屋で

女マツサージ師たちから
一緒に寝取られる〜

R18



エロバトルンノベル



登場ヒロイン



ステラ

ほんわかとした聖女さま。
金髪ロングヘアの
巨乳少女。
勇者の僕と恋人。

ハニール

茶髪ツインテールの
爆乳マッサージ師
実はサキュバス



エクレア

黒髪ロングヘアの巨乳
ふたなりマッサージ師
サキュバスが化けている

1. 愛しの聖女さんの目の前でパイズリマッサージでイカされる！？

「ふあああ♥♥♥勇者さま♥すごい♥ちんぽすごい♥♥♥」

「あああ！気持ちいいよステラさん！ぼくはもう！もう！」

「はい♥きて来ててください♥勇者さま♥♥♥あ！ふああああ！だめ……わたし！
聖女なのに！聖女なのに！勇者さまのちんぽで！はしたなく……イっちゃ
う！イっちゃいます！！ふああああああああん！！！」

ビクン♥ビクビクン♥♥♥

きゅん♥♥きゅぷう♥♥♥♥

「うう！出る！ステラさんのマンコに中出し！！最高だ！最高だよステラさ
ん！！あああああ！イク！！」

びゅる♥びゅるるるうう♥♥♥どぴゅ♥

ぼくの名はユキト、異世界に召喚されて魔王を倒すため勇者となった。

王様の命令で仲間になった聖女のステラさんとは、旅の間に恋人になった
のだ。

長い金髪に、巨乳の白い肌。ちょっとおっとりとしているけど、すごい回復魔
法の使い手のステラさん。

転移まえの世界では、ありえなかった。こんな美少女と恋人になって、毎晩
セックスできるなんて！

「ああ♥いっぱいセックスしちゃいました♥わたし……勇者さまといっしょにいら
れて幸せです♥♥♥」

「ぼくのほうこそ♥ステラさんと恋人で世界一幸せだよ！！」

僕の言葉ににっこりと微笑む姿は天使そのものだった。



「うれしいです♥♥♥あう♥ふああああ♥すごい勇者さま♥まだおちんちんおつきい♥♥♥あれ?♥まだ、精液がでてますね♥」

「え?」

ステラさんは、優しく微笑むと耳元の金髪をかきあげて、ぼくのちんぽに舌をはわせた。

ちゅぴゅ♡ちゅ♡ちゅ♡

舌だけで、白く垂れるぼくの精液をなめとってけている。

「ん♡おいし♡……きれいになったよ♡勇者さま♡」

「ステラさん！！」

「ふああ♡あん♡ちゅ♡ちゅぷ♡♡♡ん♡♡♡」

たまらなくなったぼくは、ステラさんの柔らかなくちびるをすいあげる。

ちゅ♡ちゅぷ♡♡♡ちゅちゅ♡♡♡

「勇者さま……ん♡ふあ♡」

「ステラさん♡あ……また」

「ふふふ♡勇者さまのココも♡さすが勇者さまですね♡ふあああん♡♡♡」

ぼくはふたたび、ステラさんを押し倒した。

もう彼女さえいればいい。

この冒険が永遠に続けばいいとさえ思うほど、ぼくはステラさんのことを好きになっていた……

だけど……

～次の日、宿屋～

「お疲れさまでした。勇者さま」

「うん、今日のモンスターは手ごわかったね。あ～疲れた！」

ぼくたちはその日の冒険を終えて、自分たちの泊まる部屋に帰ってきた。

地道な魔物討伐も勇者の仕事だ。しかし、毎日肉体労働が続くとさすがに身体もガタついてくる。

「ふふふ♥そう思って今日は特別に、マッサージ師さんをお呼びしているんですよ♥」

「え？ほんとう！？さすがステラさん気が利くね！ありがとう♥」

ぼくの言葉に、おっぱいを揺らしながら照れている聖女さま。その時入口の扉がノックされた。

コンコンッ

「失礼します。マッサージにおうかがいしました」

さっそく僕たちの部屋にふたりのマッサージ師が来てくれた。

ぶるん♥ぷるん♥

「え？マッサージ師さんて女の人？」

ステラさんに負けないほどの巨乳の女性がふたり、部屋のなかにはいつてきた。

「本日はご指名ありがとうございます。エクレアと申します♥有名な勇者さまと聖女さまのお疲れを癒すことができ、私たち光荣ですわ」

「ハニールです♥♥♥よろしくなの♥今日はハニたちが、勇者さまたちをすっごく気持ちよくしてあげるの♥」

礼儀正しい黒髪ロングヘアの巨乳マッサージ師のエクレア。

フレンドリーで茶髪ショートヘアの爆乳マッサージ師、ハニールが深々と頭を下げる。

どちらも、黒いブラウスのような上着と短いスカートを着ている。

「おふたりともありがとうございます。今日はよろしく願いしますね」

ステラさんもふたりに、にこやかに微笑んだ。

「ではさっそく始めさせていただきますね……ハニール準備を」

「はいなの！エクレアさま！さあ♥勇者さま♥脱いで脱いで♥」

「え？ちょっと！？うわ！」

「ひゃん♥大丈夫ですから！一人で脱げますから！」

爆乳を押し付けられながら、ぼくたちは装備をすべて外されていくのだった。

ぼくの相手はハニールと名乗る茶髪のツインテール爆乳美少女。

「それでは失礼します♥うわあ♥勇者さまの身体おつきい♥♥」

小さくやわらかな手が、あおむけに寝たぼくの胸板をさわってくる。

ふにゅ♥ふにゅん♥

おおおおお！？おっぱいが！おっぱいが！

「あー♥勇者さまってばハニのおっぱいガンみしてるう♥♥♥」

「え！？そ、そんなことないよ！ないない！」

ウソだった……ブラウスの間から白い胸の谷間が、いやらしくひしゃげていた。

正直、ステラさんのおっぱいより大きい.....何を食べたらこんなデカイ乳が育つのだろう.....

だが！大きさなど関係ない！ステラさんのおっぱいが世界で一番美しいのだから！

「ふーん♥そういう事にしておいてあげるの♥彼女さんも見てるしね♥」

「は！？」

そうだった！横ではステラさんも一緒にマッサージしているんだった！

「大丈夫ですよ♥勇者さまがおっぱい大好きなのは知ってますから♥」

「あ.....ハイ。でもほんとにガン見はしてないですから！」

ふふふ♥と笑うステラさん.....天使だ！

そう、ステラさん天然なところあるし怒ったところ見たことないんだよなあ.....

それは、それとして.....

「ふあ♥ああ♥ソコ♥ソコです♥ふあああ♥きもちいい♥」

「ココですね.....ココがいいんですね.....聖女さま.....」

クソ！なんなんだ！エクレアとかいうマッサージ師！

さっきから、ステラさんの身体揉みまくりやがって！うう.....うらやましい.....

「.....ニヤっ」

「！？」

あきらかに鼻で笑って、挑発してきたぞ！？うう！ステラさんにエロいことしたら、女でも許さないぞ！

ぷにゅ♥ふにゅううん♥♥♥

「もう♥勇者さまはあ♥コッチに集中してください♥はあい♥顔のマッサージいきますよお♥」

「は、はあい！うう……また爆乳が……え？なんで服脱いでるんだよ！うぷ！？顔にちよくせつおっぱいが！」

むにゅ♥ふにゅうううん♥♥♥

顔にハニールの生乳が、しかも、両手で左右から押し付けてきやがる！コレってぱふぱふってやつじゃ！？

「はあああん♥きもちいいですかあ？勇者さまあ♥お顔のマッサージい♥どうですかあ？はあああん♥♥♥」

「うぷ♥やめ、息ができないって！うぷ♥あまいにおいが♥うう……やわらかい！」

ふにゅうう♥♥ぷにゅうううん♥♥♥ふにゅふにゅ♥ぱふぱふ♥ふにゅうう♥♥♥♥

「はあああん♥勇者さまあすっごい気持ちよさそうな顔お♥♥ハニールもっとなんぱっちゃんおうかなあ♥♥♥エイ♥」

そう言うとハニールはマッサージ用のローションをぼくの身体と、自分のおっぱいにぬりつけた。

そのまま爆乳をズリズリズリと押し付けたまま、ぼくの身体をこすりあげていく。



「はあああん♥勇者さまの身体かたあい♥モンスターとの戦いでおつかれなん
ですnee♥♥♥アレアレ?でもでもお♥ココが一番かたくなってるう♥♥♥」

にゆぷ♥ぶるん♥♥♥にゆぷぷ♥♥♥ぶるるん♥♥♥

「うっ！ やめ！ ソコは！」

「はぁあん♥かったあい♥勇者さまの聖剣すっごく大きくなってますよお♥しかも熱うい♥ハニールのおっぱい火傷しちゃいそう♥♥♥♥」

にゅっぷ♥♥♥ぶるん♥にゅっぷる♥♥♥ぶるん♥ぶるん♥

「うう！ やめろ！ 勝手なことするな！ 誰がちんぽさわっていいっていったんだよ！ うう！」

「そんなこと言ってえ♥なんで勇者さまのおちんぽお♥こんなに勃起してるんですかあ？」

にゅぶるん♥♥♥ぶるん♥ぶるん♥にゅっぷにゅっぷ♥♥♥

ハニールのおっぱいが通過するたびに、ぼくのちんぽが押し付けられては反り返る。

「はぁああん♥ほんとにあっつうい♥♥♥勇者さまのおちんぽすごおい♥♥♥このおちんぽでえ聖女さまのおマンコズコズコしてるんですねえ♥♥♥うらやましい♥♥♥」

「はぁ！？ な、なににってるんだよ！ うう♥♥♥」

「毎晩ズコズコ♥セックスしまくっているんでしょお？ ほおらあ♥おちんぽもうんうんって♥反応してるよお♥♥♥ふふ♥」

「それは……おまえが！ あう♥♥」

むにゅううう♥♥♥ふにゅううう♥♥♥むにゅむにゅ♥♥♥

ハニールの奴が、ちんぽを爆乳にはさみこんでシゴきあげてくる。

「はぁああん♥かたあい♥♥♥すごいよ♥さすが勇者さまあ♥♥♥こんなエッチなおちんぽ初めてだよお♥♥♥ほら♥彼女もガン見してるよ♥」

「あ……え！？」

横を振り向く。

さっきまで優しく微笑んでいたステラさんの顔は、真っ青になっていた。

「あ……勇者さま……わたし……」

「ち、ちがうんです！ステラさん！こいつが勝手に！あう♥」

むにゆむにゆう♥♥ふにゆふにゆううう♥♥♥ふにゆ♥

ぼくが、ステラさんと話しているあいだもハニールのパイズリは止まらない。

「お客さまあ♥勝手にうごいちゃだめですよお♥♥♥ほらあ♥おとなしくしてえ♥♥♥
はあん♥いいこですnee♥♥♥」

「そうですよ……コレはマッサージなんですから♥心配いりません……王都ではコレがふつうなんです……だから……聖女さまも♥」

「そ、そうなんですか？……え？ふあああああああん♥そんな♥あ♥だめ♥
おっぱい♥おっぱい♥揉まないで♥♥♥」

エクレアの奴が、ステラさんの巨乳を揉みまくってる！？

「ふふん♥♥♥」

あいかわらず、挑発的に見下しやがって……はあう♥♥♥

「はあい♥勇者さまもお♥マッサージに集中してくださいあい♥♥このマッサージ
はあ♥おちんぽがもっと強くなる効果があるんですよお♥聖女さまとのセックス
のためにもお♥しっかり気持ちよくなってくださいね♥♥」

ふにゆ♥ふにゆうう♥♥♥ふにゆううう♥♥♥

「うう……そう……なのか？ステラさん……」

「勇者さま……ふああああ♥♥♥だ、だいじょうぶです♥わたしは、勇者さまを信じてますから♥あ♥あああ♥」

「ステラさん♥♥♥♥♥」

いやらしい手つきでおっぱいを揉まれながらも、必死に耐えるステラさん
……

「ふふふ♥さ♥勇者さまも♥がんばって♥気持ちよくなってくださいあい♥♥♥ほらほおら♥♥♥おっぱいぷにゅぷにゅですよお♥♥♥♥」

「ああう！はう！」

「あ♥ふあああああ♥♥♥」

ぼくたちは、女マッサージ師のテクニックに同時に悲鳴を上げた。

「あ♥ああああ！すごい！こんなパイズリ……やば！」

「ふああ♥♥だめですう♥♥♥勇者さまが見ているのに♥♥こんな♥はしたない！」

むにゅうう♥♥むにゅふみゅうう♥♥♥むにゅむにゅうう♥♥♥きゅぷ♥
ふにゅ♥むにゅ♥みゅぬ♥にゅむ♥♥♥にゅむにゅむ♥♥♥にゅぷ♥♥♥

「ああああああ！！」

「ふああああああ！！」

「ほらあ♥我慢しないでイっちゃいなよ♥勇者さま♥」

「思い切りイってください♥聖女さま♥♥♥ちゅぷ♥♥」

ハニールの乳首が、ぼくのカリ首をこすりあげてくる！

ステラさんのおっぱいが！エクレアのくちびるに吸い上げられている！

「うう……ダメだ♥♥♥ああ……ステラさん！ステラさん！！」

「勇者さまあ♥勇者さ……ま……あああ！ふあああああ♥♥♥」

ビグン♥♥♥ビクビク♥♥♥ビグン♥♥♥

ステラさんの身体が跳ね上がった。

「ステラさん……そんな……」

「あああ♥ふあああああ♥♥♥エクレアさんのマッサージきもちいい♥♥」

「ふふふ♥思い切りイってしまいましたね♥聖女さま♥……ニヤッ」

むにゅ♥ふにゅ♥きゅぷ♥♥きゅぷうう♥♥むにゅ♥♥♥ふにゅうう♥♥♥♥

「あいつ！クソ！クソ！」

「ああああん♥勇者さま♥すごい♥♥♥おちんぽすっごく硬くなって♥♥ああ♥あああん♥♥♥ハニのおっぱい貫かれちゃう♥♥♥ふふふ♥ほおら♥勇者さまも……
イっちゃえ♥♥♥♥」

むぎゅううう♥♥♥むにゅ♥むにゅ♥ふみゅううう♥♥♥むにゅうう♥♥♥

「あ♥ああああ♥ステラさん！ステラさん！」

「はう♥エクレアさん♥また♥あああん♥ふああああ♥♥♥」

「あははは♥聖女さまに無視されちゃったねえ♥カワイソー♥」

ハニールとエクレアが、ニヤニヤ笑いながらぼくのちんぽを見下ろしてくる。

「うう……こいつら！あ♥ああああああ♥♥♥」



「イクんでしょ？ 聖女さまに無視されてカワイソーなおちんぽ♥さみしく射精しちゃいなよ♥♥♥ほらあ♥ほおらああ♥♥♥イけ！！！」

むぎゅぎゅうううう♥♥♥ふにゅううう♥♥♥♥♥どぴゅ♥

「あ！ああああああ！イク！イク！クソ！なんでこんなやつのおっぱいに！！パイズリ射精しちゃう！ううう！イクう！！！」

どぴゅ♥どぴゅどぴゅ♥♥♥どぴゅううう♥♥♥ぴゅるる♥♥♥むぎゅ♥むにゅむにゅ♥♥♥ぴゅ♥ぴゅ♥むぎゅうる♥♥どぴゅううう♥♥♥

「あああああん♥♥♥すごい♥すごいよ♥勇者さま♥♥♥すごい量♥♥♥あははは♥彼女に無視されたまま他の女のおっぱいでイっちゃたねえ♥♥♥うふふふ♥気持ちよかったあ？」

ぴゅる♥ぴゅぴゅ.....ぴゅる♥

「うう♥クソ.....ううう.....」

「ゆう.....しゃさま.....ああ♥♥ふああ♥♥♥」

ちゅぴゅ♥れろおお♥♥♥ちゅ♥ちゅ♥

「や、やめろよ！なにがマッサージだよ！ステラさんのおっぱいから離れろ！うぐっ♥♥♥」

エクレアがふたたびステラさんのおっぱいにむしゃぶりつく。

ハニールも、ぼくのちんぽをくわえこみやがった！

「はあん♥♥♥勇者さまあ♥ほおらあ♥ちゃんとハニちゃんがあ♥お掃除フェラしてあげるからあ♥♥おとなしくしてえ♥♥♥はふ♥ちゅちゅ♥♥♥ちゅぴゅううう♥♥♥」

ちゅ♥ちゅ♥ちゅううう♥♥ちゅふ♥ちゅうううう♥♥♥

「あ.....ああ.....そんな.....尿道まで精液吸われてる♥うう！！また！イク！出る！！」

ちゅちゅうう♥♥♥ちゅう♥ちゅる♥ちゅる♥ちゅふ♥ちゅううう♥♥♥ビクッ♥♥

「あ♥ふああああ♥♥♥♥勇者さまあ♥ステラもお♥♥♥女の子どうしなのに♥♥♥ダメ♥イっちゃう♥♥♥ふああああ♥♥♥♥」

「「イって♥ほら♥恋人の前で思い切りイっちゃえ♥♥♥♥♥」」

「「ああああああああああああああ♥♥♥♥♥」」

ビクン♥♥♥どぴゅ♥♥♥ふしゅああ♥♥♥どぴゅるる♥♥♥ふしゅああああ♥♥♥びゅ
びゅううう♥♥♥どぴゅ♥♥♥びゅし♥ビクン♥♥♥ビクン♥♥♥♥

「あああ……また……会ったばかりの女にパイズリでイかされた……」

「ふああ……勇者さまがそばにいるのに……わたし……わたし……ああ♥女
の子にイかされちゃった♥♥♥」

ぐったりと脱力したぼくたちをあざ笑いながら、マッサージ師の女たちは黒い
スカートの中にあるパンツを脱ぎ始めた。

「……はあはあ……なにしているんだよ……はあはあ♥」

「え？ええ？なんですか？もう。おわりなんじゃ？」

「なにいつてるんですかあ？これからもっとお♥♥♥気持ちよくしてあげるんだか
らあ♥♥♥」

脱いだパンツをポイと捨てて笑うハニール。

「そうですよ♥圣女さま♥ほら♥また私に身をゆだねて♥」

ノーパンになった女たちが、ぼくたちに身体を密着させはじめる。

「や、やめろお！もうじゅうぶんだから！う♥うああああ♥♥♥」

爆乳マッサージ師の肉厚の身体がものすごい力で、ぼくを押し倒してきたの
だった。

2. 愛しの圣女さんが、ふたなりマッサージ師に寝取られる！？

「はい♥ハニちゃんのおっぱいプレスですよお♥勇者さまあ♥♥♥」

ぷにゅうう♥♥♥ふにゅうう♥♥♥

ハニールの爆乳が目の前に広がる。抵抗したくても、なぜか身体に力が入らない.....

大きめの乳輪がほおに押し付けられるのだった。

「はぷ♥こいつ.....調子にのって.....うお♥やわらかい！」

ぱふぱふ♥♥♥ぷにゅっぷ♥ぱふぱふ♥むにゅう♥ふにゅう♥♥♥

ふたたびハニールの爆乳ぱふぱふが、ぼくの顔をもみくちやにする。

「うぷ♥やわらかい！甘い香りが！うぷ♥くるし.....ああ♥」

「ふふふーん♥ハニちゃんのおっぱい気持ちいいでしょお♥♥♥でもお.....おマンコはもっとトロトロなんだよお♥♥♥」

にまあ♥と笑うハニール。

「誰も.....そんなこと.....聞いてな.....あああ！」

ちゆく♥ちゅちゅ♥♥はあ♥はあん♥♥ちゆく♥♥♥

「こいつ！耳を！あああ！やめ.....あ♥」

ちゆく♥ちゅちゅう♥♥はああん♥♥ちゅ♥れろお♥ちゆくちゆく♥♥はあはあん♥♥ね.....きもちい？.....ちゆく♥♥

「ううう！うあああ！！あああああ♥♥♥」

「ふふふん♥勇者さまってばあ♥♥耳なめられたくらいでえ♥あわてちゃってカワイー♥♥でもお.....いいのかなあ♥彼女さんはあもっとすごいことになってるよお♥♥♥」

にまあ♥ふたたび下品なほほえみを浮かべるハニール。

「は！ス、ステラさん！？」

横を振り向くぼくの目には、今まで見たこともないほどよがって悶えるステラさんの姿があった。

「ふああああああああ♥♥♥♥♥ダメです！エクレアさん♥♥そんな！女の子どうしなのに！！あ♥あ♥ああああああ♥♥♥」

「ダメって？なにがダメなんですか？お口で聖女さまのおマンコなめているだけですよ？ちゅぷ♥ちゅ♥ちゅる♥はあ♥それにほら……聖女さまのマンコもヒクヒク♥って喜んでるじゃないですか♥♥♥♥」

エクレアがまた、にやりとこちらを見て笑う。

ビグン♥♥♥

それと同時に、ステラさんの細くて白い身体がはねあがった……

「あふ♥ちが……ちがうんです！勇者さま♥ちがうの……見ないで……見ないでください……ふああ♥♥♥」

ちゅる♥ちゅちゅ♥ちゅる♥ちゅぷ♥♥♥ちゅるる♥

「ウソはよくないなあ♥ほら♥こんなにヒクついて……私の舌を待ってるじゃないですかあ？ちゅる♥ちゅううう♥♥♥」

「ふぐっ！？」

びくんびっくん♥♥♥

「ステラさん！？」

「あああ……やだ……やだよお♥いやなのに……わたし……気持ちよくなっちゃう♥♥♥ふああああ♥♥♥イイ♥♥♥」

「いい加減にしろよ！ステラさんが嫌がってるだろ！これのどこがマッサージなん……ひゃい！？」

ちゆく♥ちゆくちゆく♥♥♥もお……じゃましないのお♥

ゆうしゃさまはあ♥おみみでえ♥きもちよおく……なつててねえ♥はあん♥♥♥ちゆ♥ちゆくちゆ♥

耳の奥に、ハニールの舌がはいってきた。

ステラさんのおマンコと同じように……淫乱なマッサージ師たちのベロが、ぼくとステラさんを襲ってくる。

「ああ……勇者さま♥そんな♥ふあああああ♥♥♥」

「ちが、ちがうんです！ステラさん！こいつが♥ああ♥かってに♥♥♥」

なにがあ♥♥♥かってなのかなあ？ほおらあ♥♥♥おみみい♥♥♥きもちいいよねえ♥♥♥ちゆく♥♥♥ちゆるちゆる♥♥♥ちゆくう♥♥♥

「うう♥誰が……耳なめなんかで！」

うそはよくないなあ♥♥♥ほおらあ♥♥♥おちんちんビンビン♥♥♥ちゆく♥♥♥ちゆくちゆく♥♥♥ちゆく♥♥♥

「あひ！？やめ、やめろ！おっぱい押し付けんな！耳の奥うお！ああ♥♥♥脳みそかき回されてるみたい♥♥♥♥」

ちゆくちゆく♥♥♥ちゆちゆ♥♥♥ずるるるうう♥♥♥はあはあ♥♥♥きもちいねえ♥♥♥ほおら♥♥♥そろそろイっちゃうんじゃない？

「誰が……ああああ♥耳フェラなんかで……うああああ♥♥♥」



嫌なら抵抗すればいいのに♥♥♥♥できるならだけど.....ちゆくちゆく♥♥♥ちゆるちゆる♥♥♥ちゆふ♥ちゆくちゆる♥♥♥ちゆううう♥♥♥♥

「ああああああああああああ♥♥♥♥♥♥♥♥」

ぼくは悲鳴をあげていた。ステラさんと一緒に……

びゆる♥びゆるる♥♥♥びゅ♥♥どびゅ♥

ビグン♥ビクビクッ♥♥♥ふしゅ♥♥♥

「あはははは♥やだあ♥勇者さまってば♥ほんとにい♥♥♥耳なめだけでいっ
ちやったあ♥♥♥」

2話サンプルEND

3. 愛しの聖女さんの寝取られセックスを見ながら、爆乳マッサージ師に犯される！？

「あああ♥ちんぽが.....他の人のちんぽが♥あ♥入る♥ダメです♥♥♥そんな♥♥♥ダメ！」

「なにがダメなんですか聖女さま？私のちんぽ欲しいでしょ？ほら♥亀頭のところまで入っちゃいましたよ？ううん♥イイ♥あーイイですよその顔♥♥ダメっ
ていいながら、すごく期待してる瞳してるじゃないですか♥♥♥このムツリす
けべ聖女め♥♥♥♥」

ぐぷ♥ぐびゅ♥♥♥ビクン♥♥ビクビク♥♥♥

「ち、ちがいます！誰も期待なんかして.....あ♥ああああ♥♥♥」

「そうですか.....残念です。それじゃあマッサージはこれで終わりです.....」

突然エクレアが立ち上がり、ステラさんはベッドへ崩れ落ちる。

「え？」

訳が分からないという顔で、ベッドのそばに立つエクレアを見上げるステラさんがつぶやく。

「え？お.....おわりなんですか？そ、そう.....」

「ん？どうしました？すごく残念そうですけど.....」

「そ.....そんな.....こと.....きや♥」

ふたたび、ステラさんを押し倒したエクレアがふたなりちんぽを彼女のマンコに擦りつけた。

ぬちゃ♥

「あ♥」

「あれれ？どうしました？私のちんぽ当てただけで、甘い声でちゃったけど……」

「そんなこと、ない……ないです！わたしは勇者さまだけのものなんです！エクレアさんのモノになんか……モノになんか……」

ぬちゅ♥くちゅ♥

ステラさんがそう言ってもなお、エクレアは自分のちんぽをなんども縦に擦りつける。

「強情ですねえ……でも、ほら♥見てください♥その勇者さまは……ほかの女と夢中でキスしてますよ？」

「え！？」

んぶちゅ♥ちゅ♥ちゅぶううう♥♥ちゅちゅ♥♥♥んちゅぶ°♥♥

ステラさんの瞳が見開かれていた。

ハニールの唇が押し当てられているぼくの唇を見て……

ちゅぶ°♥♥♥ちゅる♥♥♥ちゅううう♥♥♥

「んうう！！んうううう！！！」

ハニールのツインテールを両手で掴み、何とか引きはがそうとしているのに……

「んふ♥♥ちゅぶ°♥♥♥勇者さまってばあ♥ひどおい♥♥♥もう♥♥♥乱暴なんだからあ♥♥♥ちゅちゅうう♥♥♥髪が痛いよお♥♥♥んちゅううう♥♥♥♥」

ちゅうう♥♥♥はあはあ♥♥♥

「はあ♥♥♥やめろ……離れろよ！んちゅううう♥♥♥ぼくに何したんだよお♥♥♥♥んう♥♥♥ちゅ♥♥ちゅううう♥♥♥♥うう！ステラ……さん」



「んぶ♥ふぶう♥♥♥はあん♥♥♥なにってんのよお♥♥♥ゆうしゃさまがあ♥♥♥キスしてほしがってるだけじゃん？はぶ♥♥♥んちゅうう♥♥♥♥」

引き離そうと思っても手が.....手が動かない！強力な磁石のように、ハニールの唇が、ぼくの唇をひきつけて離さないのだ。

ちゅぶ♥♥♥ちゅちゅちゅうう♥♥♥ちゅぶうう♥♥♥ちゅちゅる♥♥♥

横目でステラさんの痴態を眺めながら興奮し、ハニールとのキスで勃起させているちんぽ。

そのちんぽに、淫乱なマッサージ師のおマンコが何度もすりつけられている。

「あはははは♥彼女のまえでキスしながら興奮してちんぽ擦りつけてるヘンタイですよ？こんな男に遠慮することないでしょう？さあ♥私たちも一緒に気持ちよくなりましょう♥♥♥聖女さま♥♥♥」

ニヤつくエクレアが、ステラさんの顔をなでながら近づいていく。

「んぶうう！！んちゅ！んぶううう！！ふはっ！や！やめろ！はぐ！？」

すごい力で、ぼくの顔がハニールの唇に押し付けられた。

「んちゅ♥もう♥勇者さまったらあ♥ちゃんとコッチに集中してえ♥♥あの女もお♥ハニたちが浮気キスしてること気づいてなかったじゃん♥♥♥エクレアさまのちんぽに夢中だったんだよお♥だからあ♥♥」

くぶ♥くぶぶぶぶうう♥♥♥

「あ！ああああ♥♥♥♥はいる！ハニールのマンコに！ちんぽが入っちゃう！ああああ♥♥♥♥」

くぴゅん♥♥♥♥くぶくぶ♥くぶうう♥♥♥

4. 愛しの聖女さんをふたなりマッサージ師と一緒に犯す！？

「ふあああああ♥♥♥ふあああああああん♥♥♥♥勇者さまあ♥♥♥勇者さまのちんぽおおお♥♥♥きてるうう♥♥♥♥」

ぐぷ♥♥♥♥ぐぷりゅ♥♥♥♥ぐぷぷぷううううう♥♥♥♥♥

深くステラさんの子宮までちんぽを突き入れた。

「あああ♥♥♥勇者さまのちんぽお♥♥♥いつもより硬くて熱い！！ふあ♥ふあああん♥♥♥そんな♥ダメ♥♥♥」

「ステラさん♥♥♥ステラさんのかわいいマンコも♥♥♥いつもより絞めつけてくるよ♥♥♥ああ♥♥♥ちんぽきもちいい！！」

そうだ、やっぱりあの乳デカ女よりステラさんのほうが可愛らしいじゃないか！

ずぴゅ♥♥♥♥パン♥♥♥♥パアアアアン♥♥♥♥ずぶ♥♥♥♥パン♥♥♥♥パアアアン♥♥♥♥ずちゅ♥♥♥♥パンパン♥♥♥♥パアアアン♥♥♥♥

「勇者さま♥♥♥♥勇者さまあ♥♥♥♥ふあ！もっと！もっと！激しく！いつもより激しくしてえ！！」

「ステラさん！うう！すごい！いつもと全然違う♥♥♥♥うう♥ちんぽ搾りつくされるみたいだ♥♥♥♥ああ♥♥♥♥ちんぽが！うお♥♥♥♥」

ぐちゅ♥♥♥♥きゅぷ♥♥♥♥きゅぷぷぷうう♥♥♥♥パン♥♥♥♥パチュン♥♥♥♥きゅぴゆる♥♥♥♥♥パチュ♥♥♥♥パアアアン♥♥♥♥パチュン♥♥♥♥きゅぷ♥♥♥♥きゅん♥♥♥♥

「絞めつけてくる♥♥♥♥ああ.....やばい♥♥♥♥ピストンがまともにはできないくらい♥♥♥♥ステラさんのマンコの吸い付きが♥♥♥♥やばい！！」

「もっと♥♥♥♥もっとはげしくしてください♥♥♥♥勇者さま.....あ♥ふああ♥♥♥♥ちんぽ♥ちんぽ♥♥♥♥もっどほしい♥♥♥♥」

ぱちゅ♥♥♥♥きゅぴゆる♥♥♥♥パチュン♥♥♥♥ぐぷぷううう♥♥♥♥パン♥♥♥♥きゅん♥♥♥♥♥きゅぽおおお♥♥♥♥パチュウン♥♥♥♥きゅぴゅ♥♥♥♥

「ふあああ♥♥♥ちんぽおお♥♥♥ちんぽおお♥♥♥ちんぽほしいのおお♥♥♥ふああああん♥♥♥♥」

「はあはあ♥♥♥ステラさん！きもちいいよ！ステラさん！！あああ♥♥♥すごい！いつもと全然違う！あああ♥♥♥」

パチュ♥♥♥ぷちゅ♥♥♥きゅぷうううう♥♥♥パン♥♥♥パアアン♥♥♥きゅぷきゅぷうう♥♥♥くちゅ♥♥♥ぷちゅ♥♥♥きゅうううん♥♥♥

「どうだ！エクレア！やっぱりステラさんは、ぼくのちんぽのほうを愛してくれているんだ！お前なんかに……ん？」

ステラさんを犯しながら、見上げたエクレアの顔は……やはりいやらしくニヤついていた……

「ええ♥さすがです勇者さま♥すごい腰使いですよ♥でも……聖女さまはあなたのちんぽだけでは、ふふ♥満足しきれていないみたいですね♥」

エクレアがステラさんの耳元でささやくと、ステラさんの肩がビクリと震えた。

「何を言って……あ……」

シコシコシコシコシコシコシコシコ♥♥♥♥♥

ステラさんは、ぼくとセックスしながら……エクレアのふたなり巨根を右手でしごきまくっていた。

「ああ♥♥♥いいですよ♥聖女さまの手コキ♥♥♥そんなに私のちんぽがほしいんですか？あ？ひょっとして勇者さまのおちんぽが小さすぎて満足できないんですかねえ♥♥♥ふふふ♥♥♥」

「はあ！？……そんな……ステラさん……」

「ちが！ちがいます！そんなこと……」

シコシコシコシコシコシコシコシコ♥♥♥♥♥

けれど.....ステラさんがエクレアのちんぽをシゴく手は止まらない。

「ああ♥♥いいですよ♥聖女さま♥私のちんぽ.....待ちきれないんですね♥♥♥」

「え♥あ.....ちがいます！わたしは♥そんな.....ああ♥♥♥」

シコシコシコシコシコ♥♥♥きゅぴゅ♥♥♥きゅんきゅん♥♥♥きゅる♥♥♥くちゅくちゅ♥♥♥きゅふうふう♥♥♥♥

「ああああ♥♥♥ステラさんのマンコがまた♥クソ！ やっぱり！ そいつのちんぽに発情してるのか！」

パン♥♥♥ペアアアン♥♥♥パン♥ぱちゅん♥♥♥ペアアアン♥♥♥

「ふああああ♥♥♥勇者さま♥そんな激しく！ あああああああ♥♥♥♥」

「ステラさん♥♥♥ぼくのちんぽも感じてよ！ ほら！ ぼくのほうがいいだろ！？」

ひたすら、ステラさんのマンコにちんぽを突き立てた。

ペアアアアン♥♥♥パン♥♥♥きゅぷ♥♥♥ペアアアアン♥♥♥♥きゅんきゅうん♥♥♥ぱちゅ♥♥♥ペアアアアン♥♥♥パン♥♥♥パン♥♥♥きゅぷん♥♥♥

「ねえ！ ステラさん！ ぼくのほうがいいよね！ ぼくが、ステラさんの恋人なんだ！ 勇者さまといっしょにいられて幸せです♥♥♥って言ってたじゃないか！！」

ペアアアアン♥♥♥パン♥♥♥パン♥♥♥シコシコシコ♥♥♥ペアアアアン♥♥♥シコシコシコシコ♥♥♥パチュン♥♥♥シコシコシコシコ♥♥♥♥

「ああ.....イきそう.....こんな絞めつけてくるステラさん初めて.....ああ.....クソ！ なんでいつもより！ あああああああ♥♥♥♥」



「ちんぽがいいのお♥♥♥好きです♥♥♥愛してます♥♥♥ちんぽいい♥♥♥ちんぽイ
イ♥♥♥おちんぽ大好きいい♥♥♥♥♥ふああああん♥♥♥♥♥あん♥あん♥ああん♥♥♥
ああああああああん♥♥♥♥♥」

シコシコシコシコシコ♥♥♥♥♥シコシコシコ♥♥♥♥♥ぴゆる♥♥♥シコシコシコシコ♥♥♥♥♥

「ステラさん！！んぶ♥♥♥んちゅ♥♥♥」

横目でニヤつくエクレアを振り切るように、ステラさんとキスをする。

ぱちゅん♥♥♥ペアアアン♥♥♥きゅんきゅうん♥♥♥♥ペアアアン♥♥♥ぱちゅ♥♥ぱちゅ♥♥♥きゅふ♥♥♥♥パン♥♥♥♥パン♥♥♥♥パン♥♥♥♥ペアアアン♥♥♥

「はあはあ♥♥♥ゆ、ゆうしゃさまあ……もう♥♥♥もう♥♥♥♥はう♥♥♥ちゅ♥♥♥ちゅ♥♥♥ちゅふ♥♥♥うふうん♥♥♥♥♥♥」

4話サンプルEND

5. 愛しの聖女さんが、ふたなりちんぽに墮とされる

ハニールもふたなりちんぽが生え、エクレアとふたりでステラさんを犯そうとしている。

助けなければいけないのに、萎えちんぽと同じく身体に力が入らないのだ。

それに.....

「すごい♥♥♥こんなちんぽ♥初めて♥しかも二本も♥♥♥♥♥」

ぼくの彼女であるはずのステラさんは、ふたなり女のちんぽに夢中なのだ.....

「ああ♥いいですよ聖女さま♥そうそう♥もっといっぱいシゴいて♥♥♥」

「はあああん♥♥♥聖女さまのお祈り手コキ♥♥♥♥イイ♥♥♥でも.....もっと気持ちよくなるよねえ？ほら！ハニのおちんぽ♥口でしゃぶってよ♥♥♥♥」

突きつけられた二本のちんぽに一瞬とまどいながらも、ステラさんは目を細めて舌をつきだす。

ちゅびゅ♥♥♥ちゅ♥.....ちゅる.....ちゅびゅ♥♥♥

「すごい♥長くて♥太い♥ほしい♥ちんぽほしいれすう♥♥♥ふあああ♥♥♥おちんぽお♥♥♥おちんぽおお♥♥♥♥ちゅぶ♥♥♥ちゅる♥♥♥れろれろれおおおお♥♥♥ちゅ♥ちゅるるるう♥♥♥んぽ♥♥♥ちゅぼぼ♥♥♥♥れろおお♥♥♥ちゅちゅ♥はああ♥♥♥ちんぽすきいい♥♥♥♥♥」

「はああああん♥♥♥イイ♥♥♥おちんぽの先っぽあったかい♥♥♥あふ！やば♥聖女のフェラやばいよお♥♥♥♥おほおおお♥♥♥♥」

「ああ♥♥♥♥イイですよ♥♥♥ふふ♥♥♥ちゃんとシゴきながらしゃぶってください♥じゃないと.....おマンコにごほうびあげられませんか？そう♥♥そう！うまいですよ！あああああん♥♥♥ちんぽ感じるう♥♥♥♥♥♥♥♥」



「ふあい♥ちゆる♥♥♥エクレアさまあ♥♥♥♥♥ハニールさまあ♥♥♥♥♥ちゃんとシ
ゴいて♥♥♥ちゅぴゅ♥♥♥ちゅぼ♥♥♥お口で気持ちよくしますからあ♥♥♥♥たくま
しい勃起ちんぽお♥♥♥ステラにい♥♥♥ステラのおマンコにい♥♥♥♥いれてくら
しゃい♥♥♥♥んぽ♥♥♥ちゅぼ♥♥♥ちゅぶ♥♥♥♥」

ぼくの前では見せたことのない、淫乱な瞳でふたりのちんぽをしゃぶる彼女
.....

「ふふ♥♥♥かわいいですよ♥♥♥そんなに私のちんぽが気に入ったんですね？
それとも.....これまでのちんぽがダメだったのかなあ？」

ぼくのほうを振り向き、あのニヤついた顔をみせるエクレア。

「もう♥エクレアさまひどいですよお♥♥♥勇者さまのちんぽがカワイソーです
♥♥♥はあああん♥♥♥」

口ではなくさめているが、哀れみながらぼくを見下すハニール。

「ハニールの方がひどいですよお♥♥♥私は勇者さまのちんぽなんて言ってま
せんから♥♥♥ふふふ♥♥♥♥」

「あはははは♥♥♥♥やば♥ごめんねー♥ゆうしゃさまあ♥♥♥」

完全に見下してぼくをあざわらう、ふたなり女たち。

ちゅぶ♥♥♥ちゅぼ♥♥♥ん♥♥♥ふあ♥♥♥ちゅちゅ♥♥♥♥シコシコシコ♥♥♥♥ちゅる
♥♥♥ちゅびゅ♥♥♥♥シコシコシコシコ♥♥♥♥

そして.....そんなぼくを哀れそうに見ながらも、ふたなりちんぽをしゃぶりシ
ゴくの止めないステラさん.....

「クソ！クソ！！ステラさん.....ぼくだって！ぼくだって！」

5話サンプルEND

6. 正体を現したふたなりサキュバスを倒し、愛しの聖女さんを取り戻
したけれど.....

「あはははは♥ほんとはこういう姿なんだけどお♥♥♥どう？可愛いでしょ♥♥♥♥勇者さまあ♥♥♥♥」

「ふふふ♥聖女さま♥サキュバスのちんぽの味はいかがでした？勇者のちんぽよりも、気持ちよかったですよ♥♥♥」

角と蝙蝠のような翼を生やした、ラバースーツ姿のエクレアとハニールがあざ笑う。

「どうりで……クソ……力が入らないのは、魔術のせいか！」

「ふふふ♥♥♥いまさら遅すぎですよ♥射精するごとに♥絶頂するごとに♥エナジードレインであなたたちの力は、私たちに吸われていたのですから♥♥♥」

「あははは♥♥♥そうなのお♥レベルの低いハニたちでもお♥勇者たちの力をエッチして奪えばあ♥♥♥♥楽勝なのお♥♥♥」

爆乳を揺らしながら、ゆっくりと近づいてくるハニールたち……

「ご、ごめんなさい……勇者さま……わたしのせいで、こんなことに……」

サキュバスたちを呼び込んでしまった責任を感じて、うなだれるステラさん……

「違うよステラさん！悪いのはだましたこいつらなんだから！お前ら絶対に許さないぞ！！」

ステラさんを庇って前に入るぼくを、これまで以上にバカにした顔であざ笑うサキュバスたち。

「あはははははは♥♥♥ふにゃちんのヨワヨワ勇者に言われても怖くないのお♥♥♥♥」



「ふふふ♥♥♥大人しく殺されてください♥♥♥気持ちよくしてくれたお礼に.....
たっぷり苦しませてあげますからあ！！」

ザシュっ！！

エクレアのツメがのびて、ぼくのうでを切り裂いた！

「うわあ！」

「ほおら♥♥♥ハニとも遊ぼうよお♥♥♥勇者さまあ！！」

ガスッ！！

「ぐふっ！？」

ハニールの蹴りがみぞおちに食い込む。

「勇者さま！！」

ステラさんの悲鳴を聞きながら、部屋の壁に弾き飛ばされた。

「えー♥ウソでしょお♥もうおわりい？ほんとにい♥よわよわ雑魚ちんぽになっちゃったねえ♥♥♥」

ゆっくりとハニールが近づいてくる……

6話サンプルEND

サンプル作品を最後までお読みくださりありがとうございました。
よろしければ、本編もよろしく願いたいします。

エロバトルン

**この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件とは一切関係がありません。**

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください。

**無断転載・複製・複写・Web上への掲載
(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)
は禁止です。**

読者のみなさん、こんばんは～
ヘンタイ小説家のエロバトルンです。



名前のおり

【エッチでバトル】するお話を書いています。

作品のジャンルは

「凌辱」「復讐もの」「ざまあ」「敵女」

または、「男性受け」「おねショ●」「ふたなり」
などです。

わたしの作品を

最後まで読んでいただき
ありがとうございました！

よろしければ、フォローや
高評価、お気に入り登録、
感想レビューを
いただけると嬉しいです！

twitterで情報更新中です。
こちらもぜひフォローを
お願いします。



🔍 エロバトルン 検索

*ご注意CGのみAI生成を使用しています。

